

評価値の最も高い者が複数あるときの取扱い

落札者の選定の結果、評価値の最も高い者が複数あったときは下記の取扱いとする。

- 1 評価値の最も高い複数入札参加者について、入札書に記載した任意の3桁のくじ番号の合計を算出する。

(例) (会社名)	(入札金額)	(くじ番号)
A社	1, 000, 000円	1 2 1
B社	1, 000, 000円	7 4 5
C社	1, 200, 000円	3 3 3
D社	1, 000, 000円	5 8 1

$$1\ 2\ 1\ (\text{A社}) + 7\ 4\ 5\ (\text{B社}) + 5\ 8\ 1\ (\text{D社}) = 1,\ 4\ 4\ 7$$

- 2 上記により算出した合計を、同価となった入札参加者数で割り、余りを算出する。

$$1,\ 4\ 4\ 7 \div 3 = 4\ 8\ 2 \cdots 1\ (\text{余りの数})$$

- 3 くじ番号の小さい順に0（ゼロ）から番号を割り振る。

(例) (会社名)	(くじ番号)	(番号)
A社	1 2 1	→ 0
B社	7 4 5	→ 2
D社	5 8 1	→ 1

くじ番号が同番号の入札参加者が複数いた場合には、参加申込書受付時に通知した受付番号の小さい順に番号を割り振る。

4 2により算出した余りの数が「1」のため、3で「1」の番号を割り振られたD社が落札者となる。（仮に余りの数が「0」の場合はA社、「2」の場合はB社といった結果となる。）